

2012年(平成24年)

5月12日

土曜日

夕刊



朝日新聞西部本社 発行所:〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1 電話:093-563-1131 www.asahi.com  
福岡本部 〒812-8511 福岡市博多区博多駅前2-1-1 電話:092-411-1131

40年の沈黙破り 19日天神でライブ

# ピー 待ってた

## ザ・タイガース 瞳みのるさん



応大で中国文学を専攻。大学院を終え、慶応高校の教師となり、中国語を教えた。

「ピー」をみんなが待ちわびていた。ザ・タイガースのドラマー、瞳みのるさん(65)の愛称だ。彼が40年近い沈黙を破り、グループを去った後の人生や今後を語るライブが19日、福岡・天神のイムズホールである。入場券は発売直後に完売した。

瞳さんは1971年1月、武道館でタイガース最後の公演を終えた後、郷里の京都に戻った。定時制高校に入り直して、慶

「ピー」としての活動歴は自分からは一切話さなかった。アイドルだったことで「利」を得ることが嫌だった。再結成の誘いはあったが、拒み続けてきた。

沢田研二さんが2008年9月、NHKの歌番組で「ロング・グッバイ」を歌ったことを同僚教師から聞いた。音信不通だった瞳さんへの「帰ってこないか」のメッセージだった。今回のトークライブ「瞳みのるエンタテイメント2012」では、タイガース以降の人生を語る。バンド

解散のいきさつや再結成にいたった道筋にも触れるかもしれない。企画した福岡市のBEAによると、1月下旬に入場券販売を始めたところ、460席が瞬時に完売した。各地のライブでも同じだという。

音楽評論家の池内秀己さんは今年1月24日付の朝日新聞(西部本社発行)の音楽評で、「過去と決別し、学究と教育に生きていた瞳。(中略)トークライブでは、教育者、研究者としての40年間に接したい」と書いて関心を寄せた。

瞳さんは昨年3月に書き下ろした「ロング・グッバイのあとで」(集英社)の帯で書いた。「僕らは団塊の世代なんだと思うようになった。同世代から元気を貰おう、そして同世代の人に元気を返そう」約束が果たされようとしている。(長沢豊)